

**問題 1. 次の各文章の傍線部分の内容が正しければ○を、間違っていれば正しい言葉を埋めなさい。**

- (1) 日銀は額面より低いコストで通貨を発行し、一方で国債などの運用益を得ているが、その利益を国庫納付金と呼ぶ。
- (2) 我が国の平成 30 年度一般予算案において、国債発行額は国債費を上回っている。
- (3) 黒田東彦日銀総裁の任期は2025 年4 月までである。
- (4) 潜在成長率とは「技術水準」、「労働力」、「資本ストック」をフルに活用した場合の仮想上の成長率のことである。
- (5) ティンバーゲン曲線は横軸に失業率、縦軸にインフレ率（賃金上昇率）をとって示した右下がりの曲線である。
- (6) 全体の日銀当座預金残高は銀行的要因や、財政等要因により季節的変動を伴って増減することもある。
- (7) 補完当座預金制度の適用金利は「基準貸付利率あるいは基準割引率」で、この金利はコール・レートの上限を形成する。
- (8) 金利が低下すると、金融機関のリスク選考度は高まり、リスク資産の価格が上昇する。金融機関はリスクをとって、より高いリターンが期待できる高リスク資産を運用する。これを資産効果と呼ぶ。
- (9) 流動性プレミアム仮説によると、現在の長期金利は将来の金利の期待値であるフォワード・レートによって決定される。
- (10) 流動性のわなとは、利子率がほとんどゼロに近い水準まで低下して、貨幣保有の機会費用がゼロに近づき、貨幣需要の予備的動機が無限大になるというものである。 (3×10=30 点)

**問題 2. 括弧の中にあてはまる最も適当な言葉や数値を記入しなさい。**

- (1) 2013 年 4 月に発表された量的・質的金融緩和政策は、量的には( ① ) を 2 年間で 2 倍にするというものである。また質的には長期国債の平均( ② ) が長くなるように買い入れられている。また、日経平均や( ③ ) などの株価指数に連動した投資信託である( ④ ) の買い入れも行っている。
- (2) ユーロ圏では( ① ) の導入が我が国よりも早く、2014 年 6 月に導入された。その後 2016 年 3 月以降は超過準備に対する付利が( ② ) %となり、①の幅が大きくなった。一方でユーロ圏の中央銀行である( ③ ) のドラギ総裁は、量的緩和を今年 10 月以降は月間 150 億ユーロに縮小(いわゆる( ④ ))し、年内に終了する方針を今年 6 月に発表している。
- (3) ( ① ) を式で表すと(政府、民間金融機関銀行除く)経済主体が保有する( ② ) 通貨と( ③ ) 通貨の和で表される、一方、( ④ ) は②と民間金融機関が保有する現金残高と、中央銀行に預けた金銭の和で表される。
- (4) わが国の( ① ) システムは、2 段階対応のシステムとなっている。支払者 X (A 銀行) が ATM を通じて受取者 Y (B 銀行) に送金する場合、まず( ② ) によって X の口座を引き落とし、Y の口座残高に入金する手続きをとる。次に A、B 両行の債権債務関係を解消するために、両行の( ③ ) 残高を振り替える必要があるが、これには( ④ ) というシステムを用いる。
- (5) ( ① ) は、( ② ) から( ③ ) を引いて求めることができる。②には( ④ ) 制約があるが(実際には市場金利の例外も多いがここでは理論上)、①はマイナスの値もとりうる。①を下げるには、②を引き下げる他、③を高める方法がある。
- (6) **黒田東彦日銀総裁(2018 年 4 月参議院財政金融委員会での概要説明)の抜粋**  
日銀は 2016 年 9 月に導入した「( ① )操作付き量的・質的金融緩和」の枠組みのもとで、経済・物価・金融情勢を踏まえつつ、( ② )%の「物価安定の目標」に向けたモメンタムを維持するために最も適切と考えられる( ③ )の形成を促しています。4 月末の金融政策決定会合では、短期政策金利を( ④ )%、10 年物国債金利の操作目標を( ⑤ )%程度とする金融市場調節方針の維持を決定しました。 (2×25=50 点)

**問題 3. 伝統的な金融政策の下においてはどのような方法で日銀は金融調節を行っていたか。オペレーションの方法と政策金利誘導のメカニズムを簡潔に述べよ。** (20 点)